

エシャム・モハメド准教授 / 鳥取大学
Associate Prof. Esham Mohamed / Tottori University

<外国人研究者プロフィール Profile>

| | |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 国籍: Nationality: | スリランカ / Sri Lanka |
| 日本留学時の滞在期間: Period of Stay During in Japan: | 2002年4月1日 ~ 2006年3月15日 Apr 1, 2002 ~ Mar 15, 2006 |
| 日本留学時の大学: Education Background in Japan: | 鳥取大学 Tottori University |
| 専攻分野: Major Field: | 農業経済学 / Agricultural Economics |
| 現在の所属/職位: Present Institution / Status: | スリランカ サバラガムワ大学 / 准教授 Sabaramuwa University of Sri Lanka / Senior Lecturer |



エシャム・モハメド准教授
Associate Prof.
Esham Mohamed

<研究報告 Follow up Research Fellowship>

| | |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 受入研究者氏名: Research Adviser: | 小林 一教授 / Prof. Hajime Kobayashi |
| 受入れ期間: Researching Period: | 2010年5月30日 ~ 2010年8月27日 May 30, 2010 ~ Aug 27, 2010 |
| 研究課題: Theme of Research: | 日本の農業協同組合とスリランカの農民・アグリビジネス組織に関する比較研究 A Comparative Study of Japanese Agricultural Cooperative and Farmer Companies in Sri Lanka |



農業協同組合調査
Agricultural Cooperative Survey



農業経営調査1
Farm Management Survey 1

■研究概要 Outline of Reserch

本研究課題に沿って次のような取組みを行った。

- 日本の農業協同組合に関する研究文献及び統計データ等の収集
 - ・農業協同組合の歴史
 - ・現在の農業協同組合における役割、組織機構、事業活動、事業規模等
 - ・農業協同組合が直面する課題と対策
- 農業協同組合の実態調査
 - ・鳥取県農業協同組合中央会を訪問し、農業協同組合の歴史、役割、組織機構、事業活動等について調査
 - ・JA鳥取いなばを訪問し、大型合併農協における総合農協としての活動実態について調査
- 企業的農業経営の実態調査
 - ・鳥取県八頭町の有限会社 田中農場を訪問し、大規模水田作経営の実態と農協利用等について調査
- ゼミナールでの研究発表・研究交流
 - 大学院連合農学研究科経済・経営学連合講座農業経営学研究室が毎週開催するゼミナールへの参加と研究発表



農業経営調査2
Farm Management Survey 2

■研究成果 Result of Research



農業経営学研究室ゼミナール交流会
Exchange Party with the Seminar's Members

上記の研究活動を通じ、国単位で捉えたときに世界でも最大規模の協同組合活動とみなされる日本の農業協同組合（農協）について、歴史的な発展過程を学ぶと同時に、現在の組織の役割、組織機構、事業活動等について理解を深めることができた。農協は日本の農家における農業経営活動に対して大きな役割を担っており、現在、スリランカで取り組まれている農民とアグリビジネス企業による組織的な連携事業について発展方向を考える上で、日本の農協の経験はきわめて貴重である。日本の農協には総合農協と専門農協の2タイプがあるが、スリランカでは当面は日本の専門農協から学ぶ点が多いと判断する。今回の日本での調査結果に基づき、帰国後にはスリランカの学会等で研究発表を行うと共に、国際的な研究ジャーナルに論文発表を行うよう取り組んでいく所存である。

■日本留学の思い出 Memories of Studying in Japan

今回の日本留学は、再び日本を訪れ日本人々との楽しい交流を持つことができた大変有意義なものでした。私は、以前に4年間、同じ日本の鳥取大学で学び博士号を取得していますので、いわば第二の古里に帰ったような気持ちでした。日本の大学には、私にとって希望する研究を自由に実施できる素晴らしい研究環境が備わっています。規則に基づく統制のとれた大学のシステムがあるため、研究活動を寸断されることなくスムーズに進めることができます。研究の遂行に必要な施設や設備が備わっていて効率的に仕事を行うことができます。大学で学ぼうとする世界の大学生や研究者に対し、日本はもっとも恵まれた条件を備えた国の一つであると推薦することができます。ありがとうございました。



農村交流・ちまき作り
Interacting with the Rural Community